

CIR Insights 11

Vol. 11

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2020年秋号 全学オンライン授業アンケート

既刊のCIR Insightsでご紹介している通り、CIRでは定期的に教育調査を実施していますが、今年度はCOVID-19を受けた授業方法の大幅変更に伴い、6月に教員と学生を対象とした「全学オンライン授業アンケート」を急遽実施しました。同調査では、教員の授業担当状況や学生の授業履修状況を中心に現状把握を行いつつ、教育/学修に関する感想や、今後の期待を尋ねています。教育/学修の充実度に関しては学生の方が概ね肯定的に捉えており、そのせいか今後の授業形式については、学生の方がオンライン形式に好意的なようです。ただし学部1年生に限っては、対面形式への希望が強いことも見逃せません。

CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

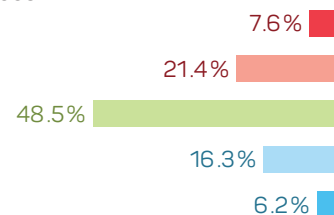
〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

今後の授業形式の希望

■ すべてが対面形式 ■ 主として対面形式 ■ 併用(授業形態によって変える)
■ 主としてオンライン形式 ■ すべてオンライン形式

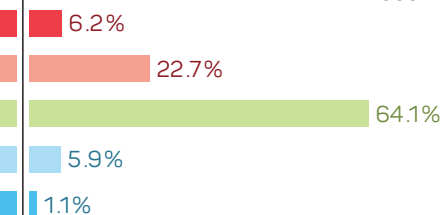
学生

n=4063



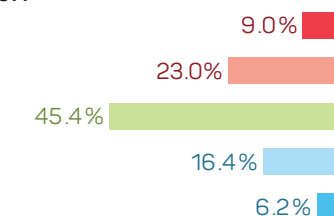
教員

n=966



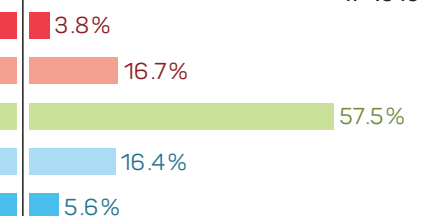
学部学生

n=2977



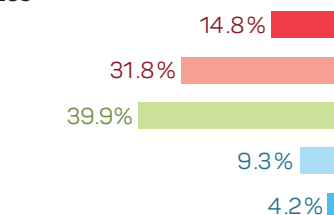
大学院生

n=1045



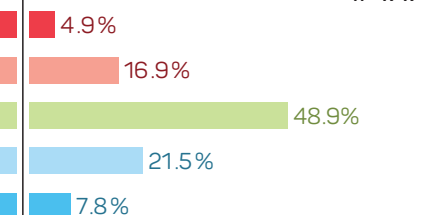
学部1年

n=1233



学部2～4年

n=1717



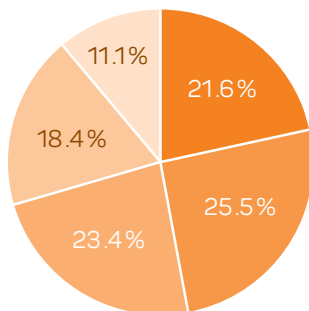
オンライン授業に対する意見

[学生の意見]

- 繰り返し見られるオンデマンド形式の方が復習しやすい。自分のペースで進められるため、理解をより深めることができる。
- 対面と比べてチャットの方が意見を言いやすい。
- 移動時間を節約できるため時間に余裕ができる。また体調が悪くても受けられるのが良かった。
- オンラインの方が資料が見やすく、声も聞き取りやすかった。
- 課題の量が多すぎる。予習や復習に時間をかけることができない。
- リモート万歳ではなく、人と人の生のコミュニケーションが大切な授業は対面にして欲しい。

今学期の学修の充実度(学生)

- とても充実していた
- 充実していた
- どちらとも言えない
- 充実していなかった
- 全く充実していなかった



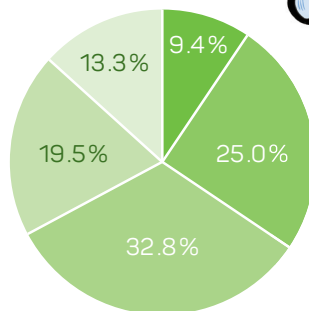
n=4063

[教員の意見]

- オンデマンド形式の方が、理解度に合わせて進行速度を学生自身が調整できる。資料として残るため学生の復習にも役立つ。
- 自分の動画を確認することで授業の改善点を見つけられる。
- 対面と比べてオンラインの方が学生からの質問が増えた。
- 対面授業の方が良いと考えていたが、学生の反応からビデオ形式の可能性を感じた。授業形式を考えるきっかけになると思う。
- 資料作成の手伝いや授業撮影・編集のためのTAを配置してほしい。
- 大学教育は、教員や学生を含めた人との関わりを含めた総合的な中で行われるもの。オンライン授業はこうした人格形成を含めた教育とはかけ離れている。

今学期の教育の充実度(教員)

- とても充実していた
- 充実していた
- どちらとも言えない
- 充実していなかった
- 全く充実していなかった



n=966



CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます [これまでの実績]

➔ 国立大学法人評価 (4年目終了時評価)

各部局における「現況調査表」作成に際し、第4回学修成果調査で収集した学生からの意見聴取等に関する基礎データを提供しました。

➔ 東北大学学務審議会 / 教育情報・評価改善委員会

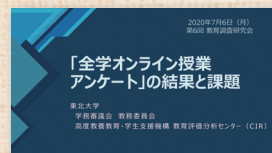
CIRは、東北大学学務審議会及び教育情報・評価改善委員会からの依頼に基づき、各々年に二回発行されている報告書「全学教育科目成績分布図」と「学生による授業評価アンケート実施報告書」の冒頭において、各期の教育活動を振り返るため、毎回独自の視点を設定して様々な分析を実施し、その結果を報告しています。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

[お問い合わせ] 教育評価分析センター → → → cir@ihe.tohoku.ac.jp



東北大学における 「全学オンライン授業アンケート」の 結果と課題 (パワーポイント資料)

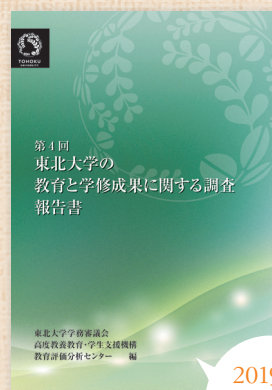
2020年度のコロナ感染拡大を機に開始された「オンライン授業」の実施状況、教育の充実度、課題等を明らかにするとともに、アフターコロナ時代の東北大学におけるオンライン教育の可能性を探ることを目的に本学の学部生・院生と教員を対象に行ったウェブアンケート。オンライン授業の実態、利点と課題、今後期待する授業形態について、定量的・定性的データで明らかにしています。



2020年
6月
実施

[目次]

1. 調査の概要
2. 学生調査
回答数と回答率/授業タイプ別平均履修コマ数(学部)/授業タイプ別平均授業内学習時間(学部)/授業タイプ別平均授業外学習時間(学部)/その他学修時間、会話時間/今後の希望—対面かオンラインか/その他の評価
3. 教員調査
教育状況1:担当コマ数による授業形態の違い/教育状況2:授業形態による違い/ストレス/今後の希望
4. 学生調査・教員調査の自由記述から
学生調査の自由記述から—頻出トピックの抽出を頼りに/教員調査の自由記述から—頻出トピックの抽出を頼りに/学生調査の自由記述から—授業の改善に向けて/教員調査の自由記述から—教育研究の改善に向けて
5. まとめ



東北大学の教育と 学修成果に関する調査報告書

東北大学の教育改善を図る取り組みの一環として平成24年度より調査開始。本学全体および各学部・研究科における学修成果がいかなる特徴を持ち、それがどのような背景に因るものであるかを中心に分析を実施。東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご活用いただける内容となっています。

2019年
3月
実施

[目次]

- 第1部 調査結果全体に関する分析
 1. 「第4回東北大学の教育と学修成果に関する調査」調査概要と得られた知見
 2. 学位授与方針と学修成果に関する認識の関係
 3. 学修成果に影響を与える学修経験について
- 第2部 各部局の結果に対する所見
- 第3部 資料(基礎集計表、自由記述、調査票)

[既刊]

- 第1回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2013年3月実施)
- 第2回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2015年3月実施)
- 第3回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2017年3月実施)